



# NIAS

Nagasaki Institute of Applied Science

2006

JULY

学報

No.86

入試広報課 編集・発行



特集

行徳理事長に聞く  
これからの「長総大」

## 長崎総合科学大学

URL <http://nias.jp>

# 特集 行徳理事長に聞く これからの「長総大」

## 理事長就任挨拶

私は前理事長の要請を受け、平成10年から理事に就任し、今年1月から常勤の常務理事、4月から理事会の要請を受け理事長に就任しました。私は本学の卒業生で、卒業以来47年間、中堅の造船所に勤務し、その後、小形造船会、(株)海洋水産システム協会の理事等の要職を勤めてきました。



全国各地の中小造船所には、多くの卒業生が、社長その他の役員として活躍されており、私の船造り人生に於いて何度か遭遇した大きな試験の時には、大変お世話になりました。その時ほど同窓生の有難み、母校の存在を嬉しく思い、励みになったことはありませんでした。お互いに皆、本学卒業生というプライドを持って頑張っておられました。さて、今や国公立大学も法人化され、ブランド大学が生き残り、改善が行われています。この度、私立学校法も大幅に改正されて、理事会が重要視され、寄附行為も大幅に改正されました。理事、評議員も減員されて経営基盤の強化が図られ、責任体制も明確化されました。また内部監査、外部監査を行い、財務情報等が公開されることになりました。経営基盤の強化、財務の健全化こそが、学校経営の永続的発展

に不可欠であります。社会、世の中が要求している企業の有価証券報告書の大学版を作成し、全ての部署が事業計画を立案し、大学としての社会的責任を果たす、それが、この大学のイメージの構築であり、学生募集、学生の就職活動支援の絶対条件でもあると思います。

私も、この大変な時期に理事長としての重責を担いました。役員も変わり、大学の新たな骨組み造りに向けてリーダーシップを発揮し、学園総てが風通しの良いコミュニケーションを図り、生き残り組に入らなければなりません。それには、中長期的なビジョンを明確にして、短期的な成果を生み出す目標管理なる手法を取り入れ、確実な成果を生み出す方策を考える必要があります。

昨年の暮れ、「建学の精神」「大学の理念」が改めて再確認され、改訂されました。近代日本を生み出したこの長崎、この地に建つ本学で私は学び、今自らがこの理念を継承し更なる発展に結び付け、特徴ある学園づくりをしていかなければなりません。

せん。それには、学生の皆さんを最大なる顧客と捉え、「創造性豊かな人材の育成を目指し、他大学に無い教育サービス」を提供して、その対価を得る。時代に沿った新しい企画、新しい研究・取り組みを行い競争社会の中で生き残って行くしかありません。

本学にも授業評価実施委員会による、「魅力ある講義に向けて」「素晴らしい試みがなされています。学生と教員の意見交換会もその一つで、お互いに信頼が生まれるものとして期待しています。教職員が一致してこのような経営マインドを理解し、諸問題に取り組んで行けば、入学後の学習のつまづきを少なくし、学生、保護者のみならず、社会からの信頼を築いていけると信じています。来年4月から大学設置基準の改正に伴い、大学の教員組織の見直しを行わなければなりません。大学の公共性を高める責任もあります。18歳人口の減少を嘆いていても仕方ありません。私はこれを、与えられた試験の時だと捉え、学生が集って来る魅力ある大学づくりに専念する決意であります。結びに、平成5年に理事長に就任された長山前理事長の、足かけ13年の永きに亘る御苦労、今年3月まで病身に鞭打ちながら心血を注いで頑張っておられたご苦労に感謝致し、心より御礼申し上げます。前理事長が押し進めてこられた、貴重な指標と路線をしっかりと受け継ぎ、「世に誇れる大学」を目指して、間違いの無い経営の舵取りをして行くつもりであります。どうぞ宜しくお願い致します。

## 学校法人長崎総合科学大学役員組織

### 1. 理事会 【任期 平成18年6月1日～平成20年5月31日】

役職	氏名	現職等	担当
理事長	行徳 威夫	(前理事長)	法人代表
常務理事	林 一馬	学長	大学(教育・研究)
常務理事	慎 燦益	工学部・大学院教授	法人総務全般
常務理事	柴口 温	事務局長	法人総務全般
常務理事	山邊 時雄	工学部特任教授、大学院教授、新技術創成研究所長	学術振興、産学官連携
理事	時津 政憲	附属高等学校校長	高等学校
理事	片山 仁志	(株)テレビ長崎 取締役副社長	法人業務
理事	貴島 勝郎	九州大学大学院教授	法人業務
理事	吉村 進	人間環境学部特任教授、大学院教授	産学官連携
理事	矢島 浩	大学院工学研究科長、工学部・大学院教授	教育・研究
理事	平坂 敏夫	情報学部・大学院教授	財務・労務
監事	小川 浩	(前監事)	
監事	清野 直之	経営コンサルタント 経営21 主宰、中小企業診断士	

【任期 平成18年6月1日～平成20年5月31日】

特別顧問	長山 明	(元理事長)	
------	------	--------	--

【任期 平成18年6月1日～平成19年5月31日】

顧問	中村 康次	(前理事、前評議員)	
顧問	亀井 守正	(前顧問、前附属高等学校校長)	

### 2. 評議員会 【任期 平成18年6月1日～平成20年5月31日】

役職	氏名	現職等
1号(学長、校長)	林 一馬	学長
	時津 政憲	附属高等学校校長
2号(法人職員)	矢島 浩	大学院工学研究科長、工学部・大学院教授
	瀧山 龍三	情報学部長、情報学部・大学院教授
	渡瀬 一紀	学長補佐、情報学部・大学院教授
	谷 昇	学生部長、工学部教授
	柴口 温	事務局長
	石丸 重人	附属高等学校教頭
3号(卒業生)	旗先 好紀	同窓会会長(前本学監事)
	山下 力	同窓会副会長
	西田 信和	同窓会事務局長
	川原田典昭	同窓会長崎地区長
	重田 勲	同窓会中九州地区長
4号(保護者)	兵働 馨	後援会副会長
	角 眞治	附属高等学校校友会会長
5号(学識経験者)	奥村 修計	長崎市議会議員
	押洲 禮子	長崎県議会議員、医師
	片山 仁志	(株)テレビ長崎取締役副社長
	貴島 勝郎	九州大学大学院教授
	山本 和雄	(株)親和銀行常務取締役長崎地区本部長
	行徳 威夫	理事長
慎 燦益	工学部・大学院教授	
山邊 時雄	工学部特任教授、大学院教授、新技術創成研究所長	
吉村 進	人間環境学部特任教授、大学院教授	
平坂 敏夫	情報学部・大学院教授	

## 平成18年度

### 学校法人長崎総合科学大学事業計画

1. 大学院生、学部生並びに高校生の入学定員および収容定員の確保に向けて、学生募集対策本部を設置する。本部は、理事長をトップに募集政策と戦略を掲げ、全教職員による募集活動を実施する。
2. 大学院教育、学部教育並びに高校教育の改善を実施する。
  - ・夫々で教育の改善を実施し、大学院生・学部生並びに生徒の質の向上に努める。
  - ・高校卒業生の学部進学増加に努める。
  - ・学部卒業生の大学院進学並びに一般企業等への就職指導強化を実施し、就職率の向上を目指す。
3. 教員の研究活動の推進を促し、研究所・センターを中心に産学官連携に伴う外部資金の導入を図り、財政基盤の安定化を図る。
  - ・受託事業、共同研究並びに奨学寄附金を積極的に受入れる。
  - ・文部科学省所掌の科学研究費補助金に全教員が原則として申請する。また、それ以外の補助金に対し、積極的に対応する。
4. 工学部、情報学部並びに人間環境学部の教育組織、教育体系の見直しを検討し、平成19年度からその改革案を実施する。
  - ・工学部電気電子情報工学科の名称を変更するとともに、学科内コースを従来の電気工学コース、電子情報工学コースを再編医療電子工学コースを設ける計画である。
  - ・人間環境学部を2学科体制に移行する計画を検討・立案する。
5. 学生のサービス充実のため施設・設備の改善を実施する。
  - ・老朽化した施設・設備の改善を図り、学生・生徒の安全確保と生活環境の整備を実施する。
  - ・3号館の補修、5号館の補修並びに10号館の補修を実施する。

## 中長期運営方針

(創造性豊かな人材の育成を目指して)

- I. 社会に求められる人材育成
  - ・環境の変化に対応した魅力ある教育の推進
  - ・学生・生徒のワンランク・レベル・アップ作戦
- II. 全員参画による学部・学科の運営
  - ・部門別運営計画の策定と目標管理の導入
  - 〔 法人の事業目標を受けて、各部門が自分達の計画を議論し、各部門の課題と目標を設定、実行、検証する。 〕
- III. 業務改革の推進(原点にもどりゼロ・ベースで)
  - ・教員、職員の意識改革(危機意識の共有)
  - ・事務職員から経営管理職員へ(課題解決提案型へ)
- IV. 新人事制度の導入の検討
  - ・教員の任期制度の検討
  - ・教員・職員の業績評価制度の検討
- V. キャンパスの再配置計画の立案
- VI. 内部監査・外部監査制度の確立

### 建学の精神

「宇内和親」  
「創意革新」  
「実学実践」  
「自律自彊」

## 本学の財政状況

貸借対照表 2006年3月31日現在

(単位:百万円)

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	
科目	金額	科目	金額
固定資産	10,839	固定負債	1,317
有形固定資産	9,217	流動負債	435
その他の固定資産	1,622	負債の部合計	1,752
流動資産	977	基本金の部合計	13,030
		消費収支差額の部合計	2,966
資産の部合計	11,816	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	11,816

2005年度 資金収支計算書 2005年4月1日から2006年3月31日まで

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,665	人件費支出	1,611
手数料収入	18	教育研究経費支出	616
寄付金収入	11	管理経費支出	239
補助金収入	567	借入金等利息支出	14
資産運用収入	18	借入金等返済支出	55
事業収入	171	施設関係支出	7
雑収入	96	設備関係支出	48
前受金収入	298	資産運用支出	3
その他収入	87	その他の支出	64
資金収入調整勘定	436	資金支出調整勘定	41
前年度繰越支払資金	988	次年度繰越支払資金	867
収入の部合計	3,483	支出の部合計	3,483

2005年度 消費収支計算書 2005年4月1日から2006年3月31日まで

〈支出の部〉		〈収入の部〉	
科目	金額	科目	金額
人件費	1,613	学生生徒等納付金	1,665
教育研究経費	879	手数料	18
管理経費	259	寄付金	15
借入金等利息	14	補助金	567
資産処分差額	18	資産運用収入	18
		事業収入	171
		雑収入	96
		帰属収入合計	2,550
		基本金組入額合計	3
消費支出の部合計	2,783	消費収入の部合計	2,547
当年度消費支出超過額	236		
前年度繰越消費支出超過額	3,196		
基本金取崩高	466		
次年度繰越消費支出超過額	2,966		

# 新たな船出

入学式から約3ヶ月。1年生は高校までとの違いに戸惑いながらも、徐々に大学生活に落ち着きを見せてきました。

学生は各学科の教育方針の基で、オリエンテーション、新入生歓迎行事、研修旅行、講義・実験・実習などを通して各学科のエッセンスを学んでいきます。自らが掲げたビジョンへ向け、時にはキャンパスを飛び出し、地域・社会との関わりもあるでしょう。これらの体験がやがて社会に旅立つ時に学生一人一人の糧になっていくことと思えます。

この学報はそんな学生の取り組みや教員の活動にスポットをあてることで、本学の教育・研究活動の内容を紹介すると共に、本学を理解してもらうためのものと考えています。

今年本学は新たな船出をしました。在学生、保護者、地域の方々に信頼され、愛される大学を目指して、理事長をはじめ、教職員が一丸となって取り組んでいきます。

本学を知る取っ掛かりとして朝日新聞社が発行する「大学ランキング2007年版」を参考にしてみてください。

本学が様々な分野で上位にランクイン。

初年度納付金が安い大学（私立大学 工、理工学部）で全国4位にランクインしたほか、大学発ベンチャーや就職支援の部

門でも全国上位にランクインし、教育評価や校地、校舎面積もAランク。

## 本学がランクインした主な部門

初年度納付金が安い大学（私立大学）

工、理工学部

全国4位 長崎総合科学大学工学部 128万円

高校からの評価

九州・沖縄地区10位（全国101位）

就職支援（就職担当教員）

全国47位

大学発ベンチャー

全国55位

私学助成

（学生1人あたりの特別補助）

理工系学部がある大学

全国3位 57.7千円

教育 Aランク

校地、校舎面積 Aランク



上記のデータ、ランクは以下から引用しています。「大学発ベンチャー」は筑波大学・横浜国立大学の共同調査。それ以外は、朝日新聞社

# 入学式



4月5日(水)、平成18年度長崎総合科学大学入学式が本学体育館において挙行された。

林一馬学長より大学院・博士課程4名、修士課程29名、工学部152名、情報学部100名、人間環境学部35名、別科日本語研修課程9名の入学が許可され「皆さんの入学は、皆さん自身の喜びであるとともに、本学にとっても新しい構成員を迎えた喜びである。今の時代に必要なものだけ学ぶのではなく、次の時代を見つめることが大事で、時代の変化に対応できる能力が求められる。社会が何を求めているか考えてください。」とお祝いの言葉が述べられた。

また、来賓を代表して4月1日に就任した行徳理事長、在学生を代表して佐仲琢也学生自治会委員長から祝辞があり、入学生を代表して大学院生の陳海鷹さん(環境計画学専攻1年) 学部生の河野祐太郎君(知能情報学科1年) 留学生の裴漢柱君(船舶工学科2年)からの挨拶の後、的山高之君(電気電子情報工学科1年)が「先生方諸先輩の助言を糧にそれぞれの分野の即戦力となるよう日々勉学に励み、立派な社会人となるよう努力したい」と入学生を代表して宣誓した。

## 【入学生】

[大学院](工学研究科)

博士課程4名、修士課程29名

[学部]工学部152名(船舶工学科37名、機械工学科43名、電気電子情報工学科24名、建築学科48名)

情報学部100名(知能情報学科45名、経営情報学科55名)

人間環境学部(環境文化学科)35名

[別科]別科日本語研修課程9名



## 大学院 生産技術学専攻を開設

本年4月、大学院工学研究科修士課程に「生産技術学専攻」を開設し、「環境計画学専攻」「電子情報学専攻」の3専攻となった。

昨年6月、文部科学省へ「構造工学専攻」と「流体工学専攻」を統合して改組する届出書を提出し、受理されたもの。

「生産技術学専攻」では、船舶・浮体構造物・海洋機器・飛翔体・原動機・機械・建築構造物・基礎構造物など、種々の分野に共通する構造工学・流体工学の理論について考究すると共に、両分野に及ぶ複合領域での工学上の基礎的問題・応用問題、さらに高度なコンピュータ利用技術について教育と研究を行う。

また、この目的を達成するために次の4系列を置く。

### 【材料工学】

構造材料・機械材料およびその溶接継手部に関して、材料強度学・破壊力学の視点に立って研究する。また、鉄筋コンクリート構造物の耐震性・耐久性向上対策などについて研究する。

材料に及ぼす環境因子の影響を定量化し、機能性の向上および評価法について解析的・実験的研究を行う。

### 【構造工学】

板・骨構造物・薄板構造物・建築鉄筋など溶接構造物の新しい概念を導入した構造解析システムや信頼度の高い総合的設計法の開発に関する研究を行う。また、構造物の極限強度新評価技術や、損傷解析新手法の開発に関する基礎研究を行う。

### 【海洋流体工学】

気象・海象・海流・海流波などに関する解析的研究を行うと共に、船舶や海洋構造物の流体工学的扱い、波浪中における運動などに関する解析的・実験的研究を行う。

船舶を中心とする浮体の安定性・操縦性および波浪中の運動性能とその制御に関する解析的・実験的研究を行う。

### 【機械流体工学】

流体の流れ、エンジンの作動物質の物性およびエネルギー交換・変換・移動理論を研究すると共に、各種エネルギー源を有効に利用する原動機の研究を行う。

さらに修士課程の3専攻を横断的に統合した博士課程の総合システム工学専攻(生産技術、環境技術、情報技術)への道へとつながる。

# NEW FACE

## ▶ 新人教職員紹介 ◀

今年の4月に新たにスタッフとなった教職員を紹介します。

- ① 名前
- ② 所属・職名
- ③ 趣味
- ④ 抱負など一言



① 時津 政憲  
② 附属高等学校・校長

③ つり  
④ 人間として最も重要な青年前期の生き方を大切にする生徒の育成に向け、『まずは、あいさつと服装からそして学力』を合い言葉に、全職員一体化した根気強い指導に取り組む。



① 吉野 勝美  
② 工学部電気電子情報工学科・教授(工学博士)

③ 昆虫、植物、鉱物などの美しい色の起源の探索、里歩き  
④ 新しい電気電子材料、デバイス、システムの研究開発とそれらの産業医療分野などへの応用を探索し、更に、それを通じて新しい発想が得意何事にも積極的に果敢にしかも粘り強く取り組むことのできる若い人を育てたい。できれば在学中小さくとも何か新しいことを生み出す喜びを体験させ自信を持って卒業させたい。



① 江頭 智宏  
② 教職課程・講師

③ 旅行、高校野球観戦  
④ 今年度新しく着任致しました。新鮮な気持ちで精一杯頑張ります。



① 石橋 康弘  
② 人間環境学部環境文化学科・助教授(博士(学術))

③ ソフトテニス、映画鑑賞  
④ これまで培ってきた環境保全のための技術開発、調査研究及び環境マネジメントシステム構築の経験を生かし、本学の教育研究活動及び地域に対し貢献できればと思っています。



① 西村 安代  
② 人間環境学部環境文化学科・講師(博士(農学))

③ 旅行、ガーデニング  
④ 近年『食育』が重要視されていますが、私の場合、特に植物を育てて学んでいく『植育』を広めて行きたいと思っています。



① 花岡 晋  
② 入試広報課(長崎担当入試アドバイザー)

③ 音楽鑑賞、山歩き、植物観察  
④ 本学の充実した教育プログラムや支援の実績を的確に高校生に届け、本学を志向する受験生を一人でも増やしたい。



① 佐々木 幸広  
② 工学部建築学科・技術員

③ 音楽鑑賞、読書  
④ まだ入ったばかりでわからないことが多いですが、僕なりに頑張りたいと思うので、よろしくお願います。

## 新入生歓迎行事

4月16日、前日の雨天で一日順延となつて、新入生歓迎行事が開催され、新入生をはじめ、在学生、教職員併せて約500名が交流を深めた。

当日は晴天に恵まれ、また、在学生の手厚い歓迎に新入生は一喜一憂しながらも、笑顔が絶えない楽しい一日となつた。



ス(旧長崎水族館跡地)。学生自治会のメンバーと各サークルの学生たちで準備運営され、音楽部、軽音楽部による演奏や、新極真空手部による演舞、各クラブ・サークルの紹介、餅つき、ビンゴゲームなどで新入生を歓迎した。

## オリエンテーションで新入生が第一歩を踏み出す

入学式翌日の4月6日、7日の両日、教育センターや事務局の新入生オリエンテーションが行われ、学生たちは高校との違いに戸惑いながら、担当の教員や職員の説明に耳を傾けていた。

当日は、共通教

育、言語教育、基礎教育の各教育センターの内容紹介、英語のクラス分けを行うためのプレイストメントテストが実施された。その他、講義を受講するための履修登録説明会や、学生部の健康診断、交通講話や消費者教育講座、YG検査による自己発見などが実施され、大学生活の第一歩を踏み出した。



### TOPICS 1 NHK大学ロボコン惜しくも決勝トーナメント進出ならず

6月11日(日)、東京渋谷の国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室で、NHK大学ロボコン2006(ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会)が開催され、本学「NiAS夢工房」(顧問・谷昇(工学部基礎教育センター教授)、代表・宮嶋宏光君(工学部電気電子情報工学科4年))が2年ぶり(8回目)に出場した。1997年に準優勝、1998年にベスト4+技術賞、2000年に技術賞、2002年にベスト4+デザイン賞を受賞。これまでに輝かしい実績を残し、今回悲願の初優勝が期待された。

この大会へ出場するためには事前に超えなければならぬハードルがあった。まず、最初のハードル「書類選考会」。12月14日(水)の書類選考会で、応募総数51大学から約半分の25大学(チーム)に絞られた。そして2番目のハードル「ビデオ選考会」が4月3日(月)に行われ、出場する18チームが選出された。この難関を突破して出場した本学「NiAS夢工房」は予選リーグ(Aグループ)で、開会式後の第1試合目となった1回戦で明星大学と対戦。各大学の戦況を見守り、また、自分達の



試合をシミュレーションしていた。このよきな中、手動のロボット、自動制御のロボット共に得点を重ね、23対0で勝利した。2回戦は優勝4回+各賞を受賞する常連で強豪の豊橋技術科学大学との対戦。1回戦から自動制御の調子が悪かった本学のロボットは、2回戦でも本来の動きがみられず、熱戦を繰り広げたものの相手にVゴールを決められて敗れ、惜しくも決勝トーナメント進出を逃した。この大会の様子は、7月17日(月)午前8時35分~9時34分にNHK総合テレビで放送された。

### TOPICS 2 関口房朗氏の特別講演会が開催される

5月18日(木)、人気TV番組「ジャンクSPORTS」等でお馴染みの関口房朗氏の特別講演会が本学グリーンヒルキャンパス3号館大講義室で開催された。関口氏は日本初の技術系アウトソーシング企業の創業者。また、馬主としても史上初の日米ダービーオーナーとして名を馳せる異色の経営者。現在、(株)VSN代表取締役会長を務める。ご子息が本学の卒業生で、また、氏は本学大学院の客員教授。本学には保護者の立場、教育者の

立場の両面から大学を支えていただいている。

講演では「私の人生哲学」と題して、自身の豊富な人生経験や若者へのメッセージを熱く語った。

会場には一般の視聴者、学生、教職員を合わせ約270名が集まり、熱心に耳を傾けていた。講演後は、多くの学生から質問が飛び出し、会場は終始熱気に溢れていた。当日はキャンパス内に関口氏が所有する「エンツォ・



フェラーリ」が展示され、全世界で数百台しかない超一流車の前に多くの見物客が集まった。

### TOPICS 3 岐阜の中学生がシーカヤックを体験

6月1日(木)、岐阜県中津川市立付知中学校の生徒5名がシーカヤックの体験と、本学学生が製作したボート「NiAS 23」で橘湾のクルージングを楽しんだ。生徒たちは、「楽しかったです。このことを帰ってみんなに伝えます」と大満足。

本学は長崎市と連携し体験型観光の受け入れとして、「海洋スポーツ」や「ロボット製作体験」「バイオエネルギー」「CG製作体験」のプログラムで参画し、「長崎遊学」に貢献している。



### TOPICS 4 卒業生が本学キャンパスを舞台に結婚式の前撮り

4月5日、入学式が終了した本学グリーンヒルキャンパスの学園広場シエスタで、結婚式の前撮りが行われた。

平成13年度、本学工学部建築学科を卒業した広畑政幸さんとその婚約者、二人の思い出の場所として本学キャンパスを選び撮影を申し出た。桜咲くキャンパスでの撮影は幸せ一杯の雰囲気にもまれた。



### 長崎総合科学大学 紀要 第46巻第2号 情報学部開設記念

学長あいさつ

#### 「情報学部開設記念論文」

Description Methods of Digital Figures for Invariant Recognition  
TAKIYAMA Ryuzo, INOUE Kohei, KANEKO Teruyuki  
設計・製造コラボレイティブシステム of Webインタフェースの構築  
池末 純一  
小型2号歩行ヒューマノイドロボットのモーション制御  
安田 元一

感覚間の同時性  
視覚と聴覚/視覚と触覚  
北島 律之・小峯 立也  
企業経営における情報利活用の変遷と今後の動向  
平坂 敏夫

視覚的クラスタリングのための遺伝的アルゴリズムの応用  
渡瀬 一紀  
既存マンシオンにおけるIT化の試み  
三浦 正俊

遺伝的プログラミングによるルール推定を用いた顧客情報管理システムの構成とその応用  
高木 昇

#### 「工学・自然科学編」

垂直軸型風車の特性試験結果  
藤川 卓爾・谷野 忠和

高森 昭憲  
「人文・社会科学編」  
「研究論文」  
顕鏡内外轉決疑  
古 倭 いしるのぞむ

「研究ノート」  
A. Lemoineの描いた「ジョフラン夫人邸の夜会」  
百田みち子

「大学院修士論文概要」  
多連結浮体システムの波浪中応答特性に関する研究  
和田 祐樹

中国大連市における広場の歴史的な形成と計画課題  
立男  
東洋近代建築の変遷  
謝 光

## TOPICS 5

### 下島助教、国際共同実験に参加 初観測の一端を担う



て、筑波大学物理学系が中心となり9つの機関が日本として参加している。

この研究は、米国フェルミ国立加速器研究所のテバトロン加速器に設置されたCDF測定器を用い、アジア、米国、ヨーロッパから60の研究機関が参加する国際共同実験で、Bs中間子の粒子反粒子の測定は、小林益川行列のトップクォークとストレンジクォークの結合を高精度で決定するのに重要な役割を果たすもので、今後小林益川理論の検証に不可欠な測定と位置づけ

られている。  
この実験で、下島助教はデータ収集装置の開発を担ってきた。

【参加している日本の機関】

- 筑波大学物理学系
- 大阪市立大学大学院理学研究科
- 岡山大学理学部
- 早稲田大学理工総合研究センター
- 高エネルギー加速器研究機構
- 京都教育大学理学部
- 近畿大学理工学部
- 長崎総合科学大学工学部
- 福井大学工学部

『何のことやら』と思われた人は、「キッズサイエンティスト」を参考にしてください。  
URL <http://www.kek.jp/kids/>

## TOPICS 6

### 学生が「まつり」を盛り上げる

#### 帆船まつり

4月27日から5月1日まで長崎港（長崎水辺の森公園、松が枝国際観光埠頭、長崎出島ワーフ周辺）で、2006長崎帆船



まつり」が開催され、大型帆船の来航・船内見学や、「観光丸」での体験クルーズ、花火大会などが実施された。

このイベントに本学工学部船舶工学科および海洋スポーツ文化センターが「ペーパークラフト教室・模型船展示」「ソーラーボートの走行・展示」で企画参加し、帆船まつりを盛り上げた。

#### 「先賢顕彰祭り」

#### 山車パレードに

「沖縄エイサー」がさるく！

また、4月29日には県立美術館から常盤埠頭に停泊する帆船



を横目に「先賢行列・長崎さるき」の山車がパレードを行い、このパレードに本学の沖縄県人会「沖縄エイサー」の学生が参加し、太鼓や三線（さんしん）のリズムとさる（こつで）の掛け声で、賑わう埠頭をさるいた。

## TOPICS 7

### 県立美術館1周年記念事業 モックモック・ ワークショップ



4月11日から5月7日まで、長崎県立美術館2Fアートリエ・アートリエ前庭・運河ギャラリーにおいて、長崎県立美術館と本学主催の「Children's Eye View」木と暮らそう」展が開催された。この取り組みは美術館の1周年を記念した事業の一環。本学が主催する「モックモック・ワークショップ」は4月29日、30日5月6日、7日の4日開催された。会場の2階上庭園に多くのちびっかが集まり、材木の丸い切れ端に木の枝や木ノ実、葉っぱなどをポンドで貼付け、アニメキャラクターやお魚など子どもらしい作品を大学生のお兄ちゃんやお姉ちゃん、お父さんやお母さんの手をかりながら作っていた。

#### 「バンブーボール」が大人気!!

会場には環境問題をテーマに人間環境学部の学生が竹を使って作成した遊具「バンブーボール」が展示された。



高さ3mの三脚を立て、竹の樋を繋げてボールを転がすもので、集まった子どもたちは目を輝かせながら楽しそうにボールを転がして遊んでいた。

文化遺産と経済発展の関係について  
程 程

車輪移動ロボットのセンサ制御に関する研究  
王 洋

VR空間内における時空間知覚  
岡東 崇

マイクロディスプレイ用LSIの開発  
金 奉基

弱反転領域MOSFETを用いたバンドギャップリファレンスに関する研究  
景 暁軍

電界放出型マイクロディスプレイにおける電子軌道のシミュレーション  
宋 培松

ハイブリッドカーパワー配分最適化におけるシミュレーションに関する研究  
譚 銀

パイプラインADCにおけるデジタル補正回路の設計・評価  
佐名 茂幸

プラズマCVD法によるゲイマモンド成長とプラズマガス・基板相互作用  
古本 隆志

大型映像装置を使用した立体映像教材効果の研究  
牧嶋 晃伸

地域論叢 21  
学生による環境啓発活動について・ばつてんキャンパルナイト実行委員会の事例  
宮原和明他

大村湾環境保全に向けた沿岸自治体・住民のネットワークづくり  
濱砂 博信

Java3Dを用いたランタンフェスティバルの再現  
渡瀬一紀他

長崎版 木製学童机・椅子の開発  
松尾有平他

環境単位から読む町並み形成の秩序・佐賀県有田内山地区を対象に  
伴文 正志

8Pへつづく

# 2006年度 NiASプロジェクト決定!



「NiASプロジェクト」は、学生部が作品製作等を計画する学生グループの課外研究活動を奨励することを目的に学生へ募集。

平成4年「工学部にふさわしい作品」「話題性のある作品」と題して募集を開始し、学生の「ものづくり」や創作への探求を支えてきた。

作品は製作の後、各種大会へ出場したり、学園祭「造大祭」で展示・実演される。



グループ名	作品名
1 夢の船研究会 (ソーラー船部門)	2人乗りソーラーボートの開発
2 夢の船研究会 (人力水中翼船部門)	高速人力水中翼船
3.サーマル・ミッション	グライダー NIAS G - 14
4.UNIX&Internet研究会	リアルタイム楽譜生成装置の開発
5 ハードウェア研究会	自走式センサーロボットの製作
6 エコの会	LED植物育成装置の開発、ソーラースクーターの開発
7.NiAS 夢工房	ロボット『NiAS Challenge 12号』
8 ISOの家	環境マネジメントシステムによるエゴをなくしたエコキャンパス
9 建築研究会	長崎の名建築の再現及び竹・木材を用いた仮設建造物の設計・制作
10 .Team.SS	長崎水辺の映像祭における学生活動のデジタルドキュメントの制作
11.アカシックレコード	VR用の3Dライブラリの製作
12.マルチメディア技術研究会	FLASHを使った映像コンテンツの制作
13 緑花	Green Project
14.サッカーロボ研究会	サッカーロボの製作

## 居住福祉資源発見の旅

早川和男工学部建築学科・教授

東信堂より「居住福祉資源発見の旅 - 新しい福祉空間、懐かしい癒しの場 -」出版。

地域社会の文化や施設の中に、高齢者の健康や暮らしを支えているものが多数あり、それらを見出し、調査し、保全、再生、創造にとりくむ人々を訪ねた記録や今後の課題を紹介している。



## 霧笛の長崎居留地

- ウォーカー兄弟と海運日本の黎明 -

ブライアン・パークガフ人間環境学部環境文化学科・教授

長崎新聞社より「霧笛の長崎居留地 - ウォーカー兄弟と海運日本の黎明 -」を出版。

三菱の大型蒸気船の船長として明治維新から海運日本の草創に貢献した英国人のウォーカー兄弟ら家族の波乱の生涯を、新事実を交え紹介している。



## 漢字の語源にみる居住福祉の思想

李 桓(り かん)人間環境学部環境文化学科・助教授

東信堂より「漢字の語源にみる居住福祉の思想」を出版。

漢字の語源に着目して、「居住」や「家屋」のもつ様々な意味を、関連する漢字概念から分析した上、居住環境に「気」と「幸福」を追求した風水理論の考え方に触れ、「家屋」と「安心居住」との原初的な関係に光を当てている。東アジアの固有の論理を問い詰めたユニークな「居住福祉」論である。



## 工学研究センター 所報 第20号

韓国における農業集落の研究  
・韓国慶尚南道固城郡九満面の集落空間構成について  
2005年福岡県西方沖地震における木造住宅の被害について  
花井 徳實  
サワガニの利き手の使用法と効果  
繁宮 悠介

固体高分子燃料電池のドット触媒層形成に関する研究  
阿南 悠太・奥村 典男  
杉田 勝・山邊 時雄  
クロスフロー型風車の高出力利用に関する研究(3)(構造物近傍における風車取付け位置による性能比較)  
谷野 忠和・仲尾晋一郎

水素製造用風力発電に関する基礎研究のための小型風車実証試験装置の開発  
谷野 忠和・仲尾晋一郎  
水素製造用風力発電に関する基礎研究のための小型風車による風力発電実証試験  
谷野 忠和・仲尾晋一郎  
ハイブリッドロボットの可能性  
中尾 浩一  
機械工学実験用デューゼル機関の特性試験結果  
(第2報:冷却特性試験結果)  
藤川 卓爾

生産システムのペトリネット表現と階層分散制御  
安田 元一  
十字隅肉溶接継手試験によるA1/SUS316の強度評価  
矢島 浩・高 允宝  
渡邊 栄一・佐藤 宏一  
丸棒引張試験によるA1/SUS316の強度評価  
矢島 浩・渡邊 栄一

山本 元道・佐藤 宏一  
「巻頭言」「自然災害」から見えるてくるもの  
芝野 由和  
被爆60年・戦後60年をふりかえって  
浅井 基文

・日本・アジア・世界のこれまで・これから

## 附属高等学校

# 自らの生き方を求めて

- 高大連携、体験学習による生徒の  
学習意欲の増進と高校生による地域還元 -



附属高校では、幅広く教養を高めさせ、学問に対する興味・関心・意欲の構築を図るとともに進路意識の高揚を図り、生徒の進路選択の一助とする目的で、大学との体験学習を実施している。

このプログラムは、今年度から制度化された長崎県補助事業「ながさき私学活性化事業」として指定を受け、私学の魅力化、生徒増へ期待されている。

内容は、大学の3学部7学科（工学部の船舶・機械・電気電子情報・建築、情報学部の知能情報・経営情報、人間環境学部の環境文化）との連携により、第2学年の全生徒を対象として、大学での体験学習授業等を行うもの。

指導者は、各学科の教授・助教授・講師や、大学院生・学部生のティーチングアシスタント。生徒は多数の学科で実施するプログラムを体験する。1日6時間、年6日間以上実施予定。

この学習で得た知識や技術は、地域・保護者・中学生に公开发表することにより、この取り組みを広く紹介し、更なる教育の充実、地域との交流を図る。

### 体験学習のプログラム予定

学部・学科名	授 業 テ ー マ
【工学部】 船舶工学科	①プレジャーボートによる海洋体験学習 ②船舶海洋試験水槽で船の性能を調べる ③3次元CADを体験し、船を造ろう
機械工学科	①機械工学科入門および金属材料の脆さ・粘っこさ
電気電子情報工学科	①楽しい電子工作
建築学科	①コンクリートのペーパーウェイト作り ②スパゲッティトラスの製作と強度実験 ③日見川流域の環境調査 = 水生生物による水質判定 = ④日見・網場地区の発見 ⑤長崎・斜面のまち再生と歴史探検
【情報学部】 経営情報学科	①シスコネットワークキングアカデミープログラム高校モデルでの導入 ②ネットワーク技術にふれてみる ③ビジネスゲーム（ゲームで学ぶ経営の仕組み）
知能情報学科	①ロボットのモーション作成と操作実習 ②Web モーショングラフィックスの制作 ③パソコンによる体操アニメーションの作成 ④日本語によるプログラミング入門 ⑤プログラミング入門
【人間環境学部】 環境文化学科	①ネイチャーアート製作 ②生物進化のメカニズム ③日見地区の史跡について ④BSE、パイオトイレ、諫早干拓事業などの調査



## 平成18年度 附属高校 入学式

平成18年度長崎総合科学大学附属高等学校の入学式が、4月10日(月)午後1時30分より本学グリーンヒルキャンパス3号館大講義室で挙行された。  
時津政憲校長が新入生123名の入学を許可し、式辞では、「この3年間は人間力を高める大切な時期。自分の隠された能力を信じ、本物の自分を見つけて欲しい」と述べ、また、人とのコミュニケーションを積極的に行う、「目的に向かって小さな努力を積み重ねて欲しい」、「基本的な生活の確立」の3つをお願いが述べられた。  
来賓を代表し、行徳威夫本学理事長が、「決して甘えることなく、弱いものをいじめることなく、自分の足でしっかり立って欲しい」と述べ、林一馬本学学長より、「壁にぶつかった時、何か一つ目標を持って欲しい」との祝辞があり、岩永 昂君が入学生を代表して宣誓を行った。

- 長崎で問う日本社会の平和と自由 奥平 康弘
- 記憶の文学 モーナ・ケルテ(訳:小川保博) 日本の敗戦期と敗戦後に生きる
- ・豊島猛、山地久造、
- ・ 榎町知彌の三氏に聞く、
- ・ 聞き手・横手 一彦
- 長崎総合科学大学学生・附属高校生の核・平和意識
- ・ 2005年版、
- ・ まとめ・芝野 由和
- 長崎平和文化研究所活動日誌
- ・ 2005年4月
- 2006年3月
- 情報科学センター所報
- 16 2005
- 巻頭言
- 浅海 勝征
- 【工学部】
- 機械工学科におけるパソコン利用教育例
- ・ メカフォーラムIIについて、
- 進 佐藤
- 【情報学部】
- 経営情報学科のコンピュータを活用した教育について
- ・ 開設初年度におけるノートパソコン活用事例の報告、
- 三田 淳司
- 【人間環境学部】
- 貸与ノートパソコンは賢い学習道具？
- 金子 照之
- 【技術レポート】
- VPN接続サービスについて
- 中満 清
- 【センター年報】
- (1)活動記録
- ・ 委員会開催
- (2)購読定期刊行物
- (3)利用ソフトウェア
- (4)施設利用状況
- ・ 2005年度前期 端末室
- ・ I、II、III、IV 講義利用
- ・ 2005年度後期 端末室
- ・ I、II、III、IV 講義利用
- ・ 端末室使用状況
- (5)2005年度情報科学センター委員会構成

# 2006年度 オープンキャンパス

**日程** 第1回：7月30日(日) } いずれも  
 第2回：8月26日(土) } 10:30~15:00  
 第3回：11月11日(土) } (受付10:00から)

**場所** 長崎総合科学大学  
 グリーンヒルキャンパス・シーサイドキャンパス

体験学習、キャンパス見学など楽しい催しを用意しております。  
 来場者には特製オリジナルグッズをプレゼント！  
 無料送迎バスを運行します。  
 詳しくは入試広報課までお問い合わせください。

☎ 0120 801 253  
 ホームページ <http://nias.jp>  
 E-mail [adm@office.nias.ac.jp](mailto:adm@office.nias.ac.jp)



## 高校生セミナー



本学では高等学校の進路指導や総合的な学習に活用してもらうため、「高校生セミナー」を実施しています。  
 このセミナーは本学から高等学校に出向いて教育・研究のエッセンスや最新の成果などを高校生に分かり易く教授します。また、本学の施設や設備を開放して実際に体験することもできます。



### テーマと担当教員

林 一馬	学 長	『建築・都市の歴史と文化』
池上 国広	工学部船舶工学科・教授	『21世紀の海洋開発「ひょっこりひょうたん島」の実現を目指して』
慎 燦益	工学部船舶工学科・教授	『アルキメデスの原理と浮力について ~潜水艇から飛行船まで~』
野瀬 幹夫	工学部船舶工学科・教授	『飛び魚をめざした挑戦者たち - 人力水中翼船開発に熱中した若者達の記録 -』
藤川 卓爾	工学部機械工学科・教授	『エネルギーのはなし』
奥村 典男	工学部電気電子情報工学科・教授	『オゾンの発生と利用、固体高分子燃料電池の研究』
宮原 和明	工学部 建築 学科・教授	『ようこそコンサートホールの世界へ、持続可能な社会と都市・建築デザイン』
濱砂 博信	工学部 建築 学科・助教授	『伝統的集落における水利用システム、環境にやさしい屋上緑化技術について他』
伴丈 正志	工学部 建築 学科・助教授	『これが建築なのだ』
浅海 勝征	工学部基礎教育センター・教授	『面白い数理科学』
谷 昇	工学部基礎教育センター・教授	『おもしろサイエンス、ロボットコンテスト出場ロボット製作について』
安田 元一	情報学部知能情報学科・教授	『ロボットの未来像 - ロボットは心をもてるか -』
池末 純一	情報学部知能情報学科・教授	『CGの過去・現在・未来』
北島 律之	情報学部知能情報学科・助教授	『脳をだます「バーチャルリアリティと感性」』
田中 義人	工学部電気電子情報工学科・教授	『先端科学と集積回路システム』
平坂 敏夫	情報学部経営情報学科・教授	『情報技術の変遷と経営』
佐藤 宇弘	情報学部経営情報学科・教授	『21世紀を生き抜くヒント・自己の確立と集団』
渡瀬 一紀	情報学部経営情報学科・教授	『高校数学で作るコンピュータグラフィックス』
日當 明男	情報学部経営情報学科・助教授	『道具としてのコンピュータ』
坂井 正康	人間環境学部環境文化学科・教授	『地球環境と21世紀エネルギー』
横山 正人	人間環境学部環境文化学科・教授	『福祉社会と情報技術、地球にやさしいリサイクル』
繁宮 悠介	人間環境学部環境文化学科・講師	『生物進化のメカニズム』
石橋 康弘	人間環境学部環境文化学科・助教授	『ごみ問題と環境ホルモン』
西村 安代	人間環境学部環境文化学科・講師	『やさいのはなし』
山邊 時雄	工学部基礎教育センター・教授	『最先端の科学の話』

## 2006年度父母懇談会の開催予定

(2006.7.1現在)

開催日	開催地	会場
6月10日(土)	長崎	本学(終了)
8月26日(土)	佐世保	佐世保シティホテル
8月26日(土)	山口	下関グランドホテル
8月27日(日)	佐賀	ホテルニューオータニ佐賀
8月27日(日)	福岡	福岡ガーデンパレス
9月2日(土)	神戸	ホテルサンルートソプラ神戸
9月2日(土)	宮崎	ホテルプラザ宮崎
9月3日(日)	松山	道後プリンスホテル
9月3日(日)	鹿児島	ブルーウェイブイン鹿児島
9月16日(土)	長崎	本学
10月7日(土)	沖縄	那覇セントラルホテル

都合により上記の会場が変更されることがあります。

詳しくは、学生課までお問合せください。

TEL : 095 838 5124

### 【式次第】

受付 / 12:30 ~

全体会 / 13:00 ~ 13:30

個別面談 / 13:30 ~ 15:00

懇親会 / 15:00 ~ 16:30

## 2006年度父母懇談会を開催

在学生の保護者を対象に「父母懇談会」を開催します。

全体会では大学の近況を報告。その後、学科担当教員との個別面談で  
ご子息・ご息女の単位取得状況、就職活動状況など情報交換を行い、  
また、保護者からの相談をお聞きする機会としています。長崎を含む  
10会場で行います。



# サポート体制

## 学生生活サポート

### [ 学生生活支援センター ]

本学で学ぶ学生が生き生きと学生生活を送れるように、学生個々に相談を受け、助言を行う。また、相談の内容に応じて学科等との橋渡しをしながら、適切な措置を講じる。

内容：学業の悩み、生活の悩みなど

場所：グリーンヒルキャンパス・3号館・4階

### [ 保健センター ]

学生の健康相談や保健指導、疾病の予防と発見、救急措置などのほか、定期健康診断を行い、学生が安心して学業に専念できる環境づくりに努めている。カウンセリングも実施。

内容：健康・心理の悩み、ケガ・疾病など

場所：グリーンヒルキャンパス・3号館・2階

### [ 食堂 ]

学生の健康を保持・増進させ、成長に必要な栄養を補給し、楽しい学生生活を送れるように食堂がある。

現在、外部委託して安価でボリュームがあり、また、学生の嗜好にあわせたメニューによる食事の提供を行っている。

場所：グリーンヒルキャンパス・本館・2階

“知っているようで、知らなかった”と耳にすることがある。  
“こんな時どうしたら、これはどこに……”  
学生が学園でより良く生活するために、大学が提供している  
内容を知り、それを活用してもらいたい。その代表的な事柄を  
紹介。

## 学習サポート

### [ 情報科学センター ]

最新のネットワーク環境で、学内情報や研究室情報をキャッチし、予習・復習、レポート作成などオンラインで行える。

内容：カフェテリア(3階)は夜10時まで自由に使えます

場所：グリーンヒルキャンパス・17号館

### [ 図書館 ]

専門書や専門雑誌はもちろん、いろいろな分野の書籍をそろえ、閲覧スペースや学習ブースを設けている。

また、他機関への複写・貸出し、希望図書のリクエストが随時受け付け可能。

内容：平日は夜10時まで利用できます。一般の方の利用も可能

場所：グリーンヒルキャンパス・10号館・3階

### [ 資格講座 ]

スキルアップや、就職活動を応援するため、インターネットを活用したe-learning方式による資格・就職支援Web講座と本学独自の講座を開講。

内容：ホームページ「学生支援プログラム」を参照。

<http://www.nias.ac.jp/employment/course/index>

場所：グリーンヒルキャンパス・3号館・3階

# 研究室を訪ねて



中尾浩一先生をたずねて

「物が動く」に  
魅力を感じ

幼少時、長崎市大浦町に住み、三菱造船所の進水式を見て育った。「この頃、夏休みの宿題は船の模型を作っていたかな・・・」乗り物が大好きで、幼稚園の時は電車とバス。小学生の時は船。中学生の時は飛行機マニアだった。とにかく「物が動くこと」に魅力を感じていた。

これまでに約100隻の船の設計をし、実際に10隻以上は自ら造った。「模型を改良するのが面白かった。今振り返るとこの体験してきたことが、「工学とはなんぞや」を自然に経験していた。大学での講義はそれをつらづける形となり、興味を持って講義を受けていた」と話す。

造船野郎は、  
スピード野郎

好奇心旺盛な中尾先生は、本学在学中、同級生とホバークラフトを造り網場湾で試走、また、就職した佐世保重工業では高速艇設計研究の傍ら、寮に帰るとホバークラフトの製作に熱中していた造船野郎

（学報第2号「造船野郎健在」で紹介）。その後、ヤマハ発動機に就いた先生は鳥人間大会に出場するためグライダーの製作に没頭する。当時の趣味は、航空機の図面収集とオートバイでのツーリング。オンロードバイクや大型バイクを乗り回し、仕事ではモーターボートの高速テストを行うスピード野郎だった。

現在は、プレジャーボートの設計・製作に力を注いでいる。今年5月の連休にミャンマーを視察した際、中国製耕運機のエンジンを改造してシャフトをつけた木造船が、人や物資を運ぶため川を行き来している情景を目にした。また、街中を走る車も改造されているが、長崎バスや昔懐かしい日本の車が当時の姿のまま走っていたそう。貧しい国だが生活の為にいるいるな工夫がされていると感じた。



現役のプランナー、  
デザイナー

昭和61年、設計事務所アルファクラフトを立ち上げ、翌年に（株）アルファクラフトを設立。

平成12年本学船舶工学科の教壇に立つまでの間、主に三菱重工業やヤンマー、トヨタの開発設計を担当してきた。本学着任後も、海が好き人やプレジャーボートが好きの人との関係は、自らが管理するホームページなどを通じて

繋がっている。また、潜水艇やシエルター、介護福祉船などアイデアを公開する現役のプランナー、デザイナーである。日本の技術は  
国を超えて

今年5月の連休にミャンマーを視察した際、中国製耕運機のエンジンを改造してシャフトをつけた木造船が、人や物資を運ぶため川を行き来している情景を目にした。また、街中を走る車も改造されているが、長崎バスや昔懐かしい日本の車が当時の姿のまま走っていたそう。貧しい国だが生活の為にいるいるな工夫がされていると感じた。

日本は海なしでは  
生きていけない

研究室には、先生が設計したプレジャーボートの写真やCAD図面などが壁に貼られ、キャビネットの上には各地方の地酒（？）があり、学生との



## オリジナルクオカードが当たる NiAS キャンパス クイズ

Q. 長崎総合科学大学の校地面積は東京ドームの面積の約何倍？



正解者の中から抽選で3名様に

NiAS オリジナルクオカードをプレゼント!

応募締切 8月31日(木)

応募方法

長崎総合科学大学の携帯ホームページ (<http://www.nias.ac.jp/mob/>) にアクセスし、「NiAS キャンパスクイズ」のページより、答えと必要事項を記入して応募してください。

NiAS キャンパスクイズのページはこちらから



※ 当選の発表は賞品の発送を持って代えさせていただきます ※

懇談のために集めていると語る。取材の後にすれ違った学生から「先生、つりにいきましょう」との誘いにふたつ返事で応え、「彼らとは平成15年に卒業研究で製作したボート「NiAS23」の補修をする」と語り、学生とは「海」「船」とつながり、信頼関係ももちろん築いている様子。「日本は海なしでは生きていけない遊びの場であったり、仕事の間でもある。海や船に興味を持って、楽しんで欲しい」とメッセージ。



編集後記

先日、近くの国道に設置してある気温表示を見たらなんと38。これでは本格的な夏を前にすでに夏バテしそう。皆さんもくれぐれも自愛下さい。学報は皆さんとのコミュニケーションのページ。ご意見・ご感想はいつでもお寄せください。(エ)

中尾浩一  
工学部船舶工学科助教  
昭和23年長崎県生まれ  
昭和47年長崎造船大学(本学)船舶工学科卒業  
昭和47年〜54年佐世保重工業、昭和54年〜61年ヤマハ発動機を勤務の後、昭和61年に設計事務所アルファクラフトを開設、翌年(株)アルファクラフトを設立し開発設計を行う。平成12年から本学勤務。



このQRコードで  
本学携帯電話ホームページにアクセスできます